

超音波バリ取り請け負い

ブルー・スター

自社大型装置活用

【相模原】ブルー・スターR&D（相模原市中央区、柴野美雪社長）は、独自の超音波バリ取り洗浄装置を使ったバリ取りの請負サービスを4月中旬に始める。本社内に専用スペースを設けて同装置を3台設置。愛知県岡崎市の拠点にも大型のバリ取り装置を設置し同サービスを手がける。国内外の自動車や電子機器関連の受注を想定し、2023年3月期に6億円の売上高を目指す。



本社内に設置した超音波バリ取り洗浄装置と柴野佳英会長

神奈川・愛知 車・電子機器を開拓

金属や樹脂、セラミックスなどの加工で発生するバリは通常、人手で除去しており負担が大きい。バリ取り装置導入による自動化が求められる一方、コロナ禍で設備投資の判断が難しくなり、ブルー・スターR&Dは請負サービスが有効と判断した。柴野佳英会長は「新型コロナウイルス感染症対策の観点でも人に頼るバリ取りは危険。設備投資を抑えつつ人件費削減、品質の確保を進めるためにも請負事業は必要」と強調している。

請負サービスのために本社実験室の半分のスペースを確保。加工対象物（ワーク）を入れるカゴのサイズが幅600ミリ×奥行き400ミリのタイプを2台、同幅800ミリ×奥行き300ミリのタイプを1台置き対応する。愛知県の拠点で製品のデモンストレーションを行う中部・超音波バリ取りセンターにも同幅800ミリ×奥行き300ミリの大型バリ取り機を設置した。

両拠点に大型の装置を備えることで、幅広い部品のバリ取りに対応する。自動車や電子機器だけでなく、医療機器関連など新規の需要も取り込む考え。同社のホームページも14カ国の言語に対応しており、海外からの受注も狙う。同サービスの事業は経済産業省の2020年度事業再構築補助金事業として採択されている。